

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・11月号・付録  
2015年11月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510  
ホームページ <http://www.houkon.jp/>  
Eメール [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)  
編集・藤田真文

## 放送セミナー盛況終了

### ―9月理事会報告―

2015年9月28日、9月理事会を開催した。

#### 1. 委員会活動報告

##### ◇出版事業委員会 飯田委員長

・8月17日と9月16日に編集会議を開催した。11月号の特集は「戦後70年を放送はどう伝えたのか前編」。表紙は黒木華さん、パーソンは今野勉さん。12月号の特集は引き続き「戦後70年を放送はどう伝えたのか 後編」。野崎茂氏追悼文掲載予定。表紙は波瑠さん、パーソンはアーサー・ビナードさん。

・電子版については、テストデータにゴーサインが出たので、2016年1月号から可能になった。

##### ◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉藤久選奨事業委員長

・7月31日に7月度の月評会を開催して、TBSテレビ60周年特別

企画「日曜劇場「天皇の料理番」

(TBS) 水曜日のダウンタウン

「徳川慶喜を生で見た事がある人まだギリこの世にいる説」(TBS)

S) 特報首都圏「問い続けた30年

日航機事故の遺児たち」(NHK)

報道特集「インドネシアでの戦時

性暴力」(TBS)の4本を選出

した。また、8月31日に8月度の

月評会を開催して、NHKスペシ

ヤル「女たちの太平洋戦争」(従軍

看護婦 激戦地の記録) ETV

特集「書きかえられた」沖縄戦

国家と戦死者・知られざる記録」

(NHK) NNNドキュメント15

3・11大地震シリーズ「2つのマ

ル秘」と再稼働」(日本テレビ)ハ

ートネットTV シリーズ戦後70

年 障害者と戦争「ナチスから迫害された障害者たち①②」(NHK)を選出した。

・第53回ギャラクシー賞上期の応募数。9月4日締切分は147本だった。現在視聴作業中。

〈ラジオ委員会〉橋本委員長

・8月26日と9月24日に定例会を開催した。8月の定例会では8月上旬までに放送された戦後70年関連番組48本を、9月は8月中旬から9月中旬にかけて放送された番組63本を試聴してそれぞれ担当を決めて番組評を執筆した。

・「入賞作品を聴いて、語る会」を大阪・毎日放送AVルームで9月27日に開催した。参加人数は一般が31人、学生が20人で、懇親会も盛況だった。

・ギャラクシー賞の応募作品とは別に委員の推薦枠を持つが、この運用について討議したい。「テレビと同様のプロセスができればいいのでは」「毎月の試聴番組から推薦する」などの意見が出たが、委員会で意見を集約して理事会に提出する。

〈CM委員会〉稗田委員長

・8月19日、9月17日に定例会を開催して気になるCMについて話し合った。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・11月7日に「制作者と語る会」を専修大学神田校舎5号館で開催することになった。ゲストは瀬戸内海放送と三重テレビ放送、NHKの制作者の予定。専修大学での開催は初めてなので、委員のネットワークを使って広報し、集客を頑張りたい。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・9月11日にセミナーを開催した。参加者は111人で、アンケートの結果97%の満足度だった。約16万円の黒字の予定。次回は2016年2月に開催の予定。



放懇セミナー「ラジオの可能性を真剣に考える」会場

◇マイベストTV賞プロジェクト  
滝野プロジェクトリーダー

・運営サイト刷新は、概算スケジュールと350万円の見積が提示された。ITコーデイネーターに確認したところ、妥当な金額とのことだったので、データニュース社に発注したい。これを了承。今年中にプログラムを決定して、2016年4月から新しいシステムで運用の予定。

2. その他

①入会の件

正会員

天野輝和さん

維持会員

CBCラジオ

②準会員制度の件

新しく始まる準会員制度の会員名称を次回の理事会で決定したいので、次回の理事会までに候補を事務局に送ってほしい。

③ギャラクシー賞会場

8月下旬にセルリアンタワー東急ホテルの会場を下見に行った。

④日韓中テレビ制作者フォーラム

今年の放送批評懇談会正会員からの参加者を検討中。

⑤野崎茂さん訃報

9月12日に亡くなられた。「GALAC」12月号に追悼文を掲載予定。

⑥事務局から

・8月末に事務スペース模様替えを行い、会議スペースにエアコンを取り付けた。

・7月末から録画システムをスパイダーからパナソニックの全録機に変更した。

・正会員名簿作成開始

10月上旬に名簿作成の連絡を正会員に発送する予定。

◆次回以降の理事会

10月 10月21日(水)

11月 11月20日(金)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、川喜田尚、飯田みか、藤久ミネ、稗田政憲、鈴木嘉一、滝野俊一、茅原良平、上滝徹也、小林毅、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、山田健太、中島好登



## 公開シンポジウム

### 〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉Vol.8

■日時 2015年11月7日(土)午後1時開始、5時すぎ終了予定

■場所 専修大学神田校舎5号館551教室(東京都千代田区神田神保町3-8)

■主催 NPO法人放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会  
専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科

■入場無料(定員100人) 参加希望者は事前にメール(info@houkon.jp)か  
FAX(03-5379-5510)で申し込んでください。

締め切り11月4日(水) 但し、定員になり次第締め切らせていただきます。

今年で第52回を数えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、NHK広島放送局の『里山資本主義』の提言と報道活動などが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉を開催してきました。受賞作のダイジェスト版を上映するとともに、その報道活動に携わった制作者をゲストとして招き、報道活動部門の選奨委員らとトークを繰り広げます。今回は「制作者の執念と、組織の力」というテーマを設定し、第52回ギャラクシー賞報道活動部門の受賞作3作を取り上げます。

大賞受賞作は瀬戸内海放送(高松市)の『高知白バイ衝突死』を巡る検証報道です。2006年、高知県でスクールバスと白バイが衝突し、白バイ隊員が死亡した事故で、元バス運転手の有罪が確定しました。しかし、一連の調査報道で警察による証拠捏造疑惑が浮上しています。冤罪の確信を深める記者の執念と綿密な長期取材には圧倒されます。

三重テレビ放送の「ハンセン病に対する差別解消に向けた報道」(優秀賞受賞)は、国家賠償請求訴訟で熊本地裁判決が出た2001年から、三重県出身者が各地の療養所に隔離された経緯などを掘り下げ、5本のドキュメンタリーを作りました。出版化も評価を高めました。NHKの東日本大震災プロジェクト「明日へ—支えあおう—復興サポート」(選奨受賞)は、各分野の専門家を被災地に招き、行政や住民、支援者らと話し合う場を設けて、復興の道筋を探る月1回のシリーズです。東京と地域放送局の連携が具体的な成果をあげています。制作者、研究者、一般市民、学生を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

#### ◇ゲスト

瀬戸内海放送 報道制作ユニット グループリーダー 山下洋平

三重テレビ放送 報道制作局長 小川秀幸

NHK制作局 エグゼクティブ・プロデューサー 棚谷克巳

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

#### 〈問い合わせ〉

■放送批評懇談会 電話 03-5379-5521(平日午前10時~午後1時、午後2時~6時)